

## 第1号議案

道路改築事業

かわしま しぶかわ かない うばしま  
 国道353号 川島バイパス 渋川市金井～祖母島

着工年度 平成21年度

評価理由 5年継続

## 1. 事業の目的

国道353号川島バイパスは、地域高規格道路である「上信自動車道」の一部として、吾妻地域から関越自動車道等とのアクセス向上により、観光誘客や物流の効率化による地域経済活性化やハッ場ダム地域の生活再建を支援し、また、県央地域の中核的医療施設への搬送時間の短縮等を図るものである。

## 【上信自動車道全体の効果】

## ○医療機関への搬送時間の短縮

・吾妻地域から県央地域の第3次医療機関への60分圏域人口が約1万1千人増加  
 【約115千人 ⇒ 約126千人】

## ○関越自動車道へのアクセス向上

・関越自動車道 渋川伊香保ICから草津温泉へのアクセス時間が約30分短縮  
 【約90分 ⇒ 約60分】

## ○ハッ場ダム地域の生活再建を支援

## 【上信自動車道 川島バイパスの効果】

## ○国道353号の渋滞緩和

・北群馬橋交差点 渋滞長 400m → 解消

事業箇所



## 2. 事業概要と進捗状況

## 事業概要

事業場所	しぶかわ かない うばしま 渋川市金井～祖母島	
区分	今回	事業当初
全体事業費	4,900百万円	4,900百万円
事業期間	H21～H28	H21～H28
事業内容	道路延長 2,200m 幅員 10.5m	道路延長 2,200m 幅員 10.5m

## 事業経緯

年度	主な経緯
H21	基準点測量 平板測量
H22	路線測量 道路予備設計
H23	道路詳細設計 用地調査 用地買収着手
H24	用地買収

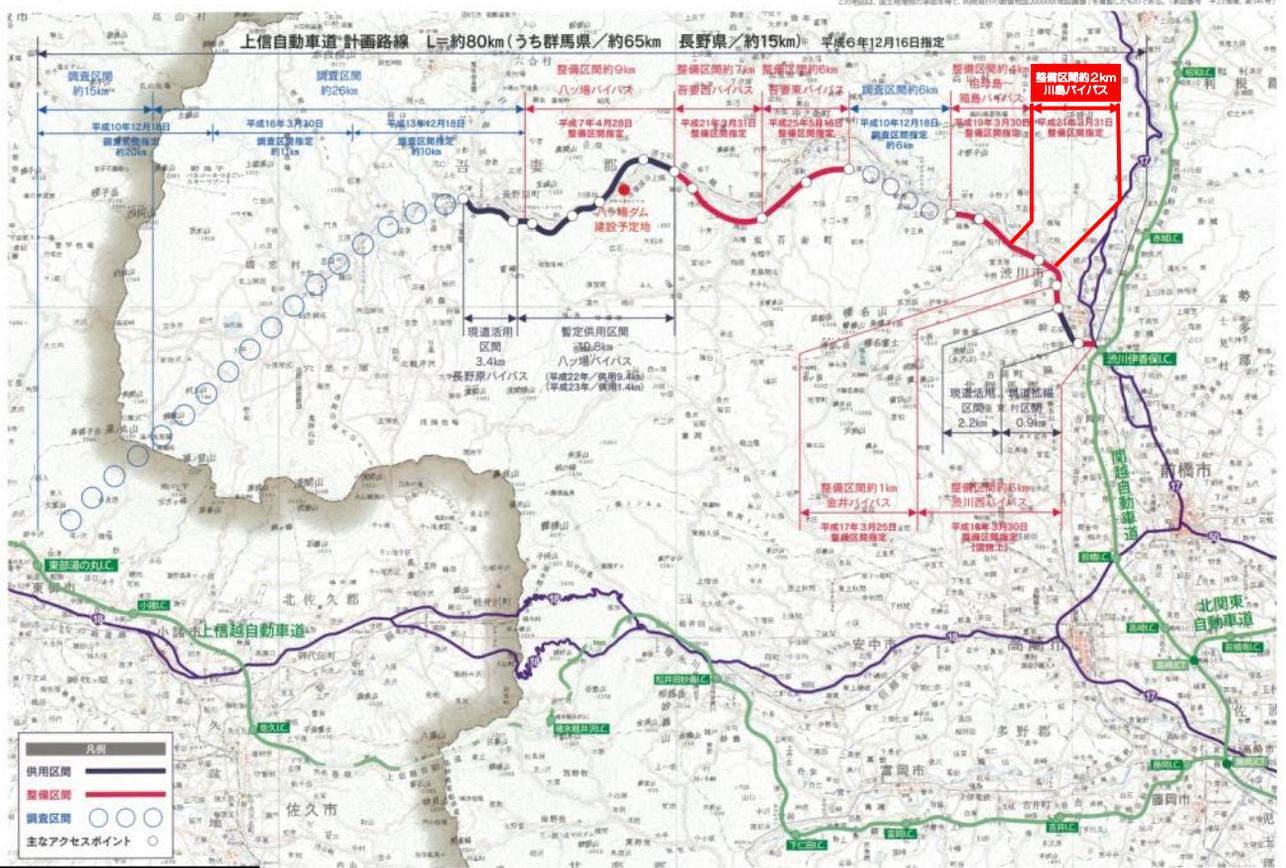
## 進捗状況

	全体計画	現在の進捗状況 (進捗率)	前回評価時の進捗状況 (進捗率)
事業費	4,900百万円	1,969百万円 (40.0%)	
用地買収	95,800㎡	64,059㎡ (66.9%)	
計画延長	2,200m	0m (0.0%)	

## 2. 事業概要と進捗状況(図面・写真等)

### 地域高規格道路「上信自動車道」

上信自動車道 計画路線図



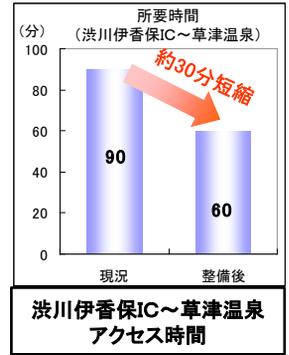
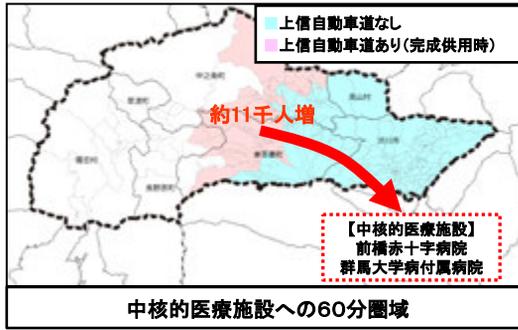
### 川島バイパス概要



### 3. 事業の目的・必要性に変化はあるのか？

- ・国道353号(渋川市村上)では、交通量・混雑度ともに増加傾向であるうえに、北群馬橋交差点では渋滞が発生しており、依然として吾妻地域の活性化には交通混雑の解消が急務である。
- ・吾妻地域と県央地域間の移動時間は改善されておらず、地域高規格道路の整備により、物流・観光等の地域間交流の活性化や、中核的医療施設への患者搬送時間短縮が望まれおり、事業の目的・必要性に変化はない。

国道353号 交通量調査結果 渋川市北牧付近(H22センサス)  
 交通量: **16,502台/日** 混雑度: **1.40**



### 4. 目的を達成するための事業(手段)は適切か？

- ・本バイパス事業の実施により、周辺道路の渋滞緩和、医療機関への搬送時間の短縮、関越自動車道へのアクセス向上など、吾妻地域と県央地域間における移動時間の改善を図ることができることから、目的を達成する事業として適当である。
- ・道路縦断計画の見直しにより、橋梁延長の短縮による工事費の低減や近接工区との土工量収支に配慮した残土の有効活用による処分費低減等に努めているところである。

### 費用便益分析

単位:千円

		計 画 時		今 回 再 評 価 時		備 考	便 益 説 明
算出根拠マニュアル		費用便益分析マニュアル 国土交通省 道路局、都市・地域整備局 平成20年11月		費用便益分析マニュアル 国土交通省 道路局、都市・地域整備局 平成20年11月			
基準年		平成20年		平成25年			
区分	項目	現在価値	構成比	現在価値	構成比		
費用 (千円)	工事費	4,122,000	95.5%	4,387,000	94.5%		社会的割引率を考慮した現在価値化による
	維持管理費	196,000	4.5%	255,000	5.5%		
費用合計(C)		4,318,000		4,642,000			
便 益 (千円)	走行時間短縮便益	5,900,000	88.5%	9,353,000	82.6%	道路ネットワークの変更による  (将来計画ネットワーク(前回) ↓ 事業化ネットワーク(今回))	
	交通事故減少便益	606,000	9.1%	916,000	8.1%		
	走行経費減少便益	158,000	2.4%	1,056,000	9.3%		
便 益 合 計 ( B )		6,664,000		11,325,000			
費用対効果分析(B/C)		<b>1.54</b>		<b>2.44</b>			

## 5. 事業が長期間要している理由は？

【 元々が長期計画 】

不測の事態により長期化 】

・インターチェンジごとに開通目標を設定して計画的に事業を推進するが、事業延長L=2.2km、全体事業費49億円と事業規模が大きく、地元調整、用地取得、工事完成までに長期間を要する計画となっている。

### 【参考】

事業期間 調査設計:2年間 用地交渉(地権者約120名):3~4年間 工事:4年間  
主要構造物 橋梁:4橋 下川島インターチェンジ:1箇所

## 6. 事業の対応方針は？

事業継続

事業中止

変更なし

・ 事業計画の変更 ・ スケジュールの変更

国道353号川島バイパスは、地域高規格道路である「上信自動車道」の一部として、吾妻地域から関越自動車道等とのアクセス向上により、観光誘客や物流の効率化による地域経済活性化やハッ場ダム地域の生活再建を支援し、また、県央地域の中核的医療施設への搬送時間の短縮等を図るために事業実施するものである。

国道353号の北群馬橋交差点では、依然として渋滞が発生しているなど、吾妻地域と県央地域間の移動時間の短縮が図られておらず、吾妻地域の安全安心の確保と地域経済の活性化のため地域高規格道路の整備が急務となっている。このため、本事業が望まれていること状況は変わっていない。

当該事業実施にあたり、地元市町村や地域住民との合意形成に努めた結果、道路計画や構造についての同意が得られたため、平成23年度には、用地買収に着手し、平成25年度から改良・橋梁工事に着手したところである。平成28年度の開通に向けて、1日も早い効果発現に向けてバイパス整備を推進する。

整備推進にあたっては、道路縦断計画の見直しにより、橋梁延長の短縮による工事費の低減や近接工区との土工量収支に配慮した残土の有効活用による処分費低減等に努めているところである。

吾妻地域と県央地域の移動時間の改善、医療機関への搬送時間の短縮の観点から、事業の必要性、重要性は高く、早期に効果発現を図ることが適切であり、事業継続が妥当と考える。